



脇本海岸 渚だより

NPO法人
脇本海岸ウミガメ・シロチドリ会
第4号(期間:2022年10~12月)

(10月~) “ななつ星” が注目する脇本海岸の自然保護活動

JR九州の豪華列車“ななつ星”が牛ノ浜駅に停車する間に、NPOの自然保護活動を紹介することになりました。停車時間が1時間しかなく脇本海岸には来られないので、大川島海水浴場において実質30分の中で、ウミガメの保護活動の説明とマイクロプラスチックの回収のデモを行っています。お客様の自然保護への関心は高く、列車の最大定員18名のうち大半の方が海岸を訪れて自然崩壊の現状と絶滅危惧種の保護活動の説明を聞き、盛んに質問もされます。

3月までの毎週土曜日にNPOの3名が大川島に出向いて対応しますが、脇本海岸の美しさと自然保護活動を同時に紹介するため、近い将来には、ななつ星が折口駅に停車するように働きかけています。自然保護活動そのものが観光資源となる時代になっていますので、「観光産業のためには自然はある程度犠牲になる」という古い考え方を変えていくきっかけになればとの思いもありこの取り組みを推進しています。



TV 放映されたななつ星クルーの研修会の様子



大川島の堤防から甌島に沈む夕日を見るななつ星の客

(9, 10月) 令和4年上期NPO報告会



日露戦争碑から松林、孵化場の視察をする会員

9月と10月に半期報告会を開催し、NPO会員に保護活動の現場と絶滅危惧種の今期の状況を確認していただきました。シロチドリは“渚だより”2号に記載の通り絶滅の危機にあるため、来シーズンは集中営巣地を保護エリアとするなど、兵庫県淡路島のシロチドリ保護活動ではすでに当たり前になっている施策を推進します。ウミガメについては“渚だより”3号の記載の通り、令和4年シーズンは上陸・産卵が好調でしたので、今後は孵化率向上のために鹿児島水族館と連携し産卵巣の温度調節などに取り組む予定です。

(11月) 脇本小と伊作小のオンライン授業

脇本小3年生と日置市立伊作小4年生の環境保護に関するオンライン授業に、自然保護の講座を担当しているNPOも出席しました。脇小からのプレゼンでは10人の生徒が順番に発言し、脇小紹介、カメ新聞の発表、ウミガメやシロチドリに関するクイズ形式の質疑応答がありました。伊作小からは、9月に開催したカメさん祭りの様子や映像による校庭のウミガメ孵化場と海岸でのウミガメ放流の様子を紹介がありました。環境保護やウミガメ保護についてしっかりと意見が交換され素晴らしい授業でした。



モニターに映し出された伊作小の孵化場の様子

(11月) 「日本野鳥の会」による脇本海岸のシロチドリの保護支援



シロチドリの群れの中に1羽だけハマシギがいますがわかりますか？



NPO法人理事が8月に「日本野鳥の会かごしま県支部」に加入しました。11月の野鳥の会の講演会の中で支部長より脇本海岸とシロチドリが紹介され脇本海岸は貴重な鳥の生息地として県内の野鳥愛好家に広く認知されました。さらに令和5年の秋に探鳥会が脇本海岸で開催されることが決まりました。

入会后、毎月1回海岸の野鳥の調査が行なわれており既に20種類以上の鳥が確認されています。中には色鮮やかなミヤコドリという珍しい鳥も見られました。また鳥だけでなく貴重な甲殻類や植物も生息していることがわかりました。多様な生物を守りながら、人が楽しめる海岸になることを願っています。

(左) ミユビシギ：シロチドリに似ていて、シロチドリの群れと一緒に行動することが多い。見分け方はシロチドリより嘴が少し長いことと、歩きながら砂の中のムシをついばむこと。シロチドリは歩いたあと立ち止まってからついばむのでよく観察すると見分けられます。

(11月) 馬場区の高齢者学級へ海岸の保護活動の紹介

6月に嶋之浦東公民館での紹介に続き、馬場区の高齢者学級の皆さんへウミガメ、シロチドリの保護活動の内容と海岸の自然や景観が失われつつある現状を説明しました。久しぶりに海岸に来たという方もいて、懐かしい景色に目をやりながらも、海岸の変化や初めて聞くウミガメの話に熱心に耳を傾けていらっしゃいました。



(12月) 東川隆太郎氏の案内による脇本海岸の史跡散策

史跡や歴史を紹介するTV番組で人気の東川さんによる、脇本小6年生の史跡散策イベントが開催されました。脇本小の藤崎校長が氏を歴史案内人として招いたもので、地域の区長やNPOも参加して、愛宕鼻の青面金剛(しょうめんこんごう)の碑、愛宕神社、そこから山の遊歩道を降り若宮神社、さらに寺島宗則の家系の墓と沈溺庶霊塔(ちんでんしょれいとう*)がある墓地を巡りました。東川さんの軽快で楽しい話はわかりやすく、地域の人たちが知らない多くの発見もありました。史跡に関するクイズに生徒たちも元気に挑戦していました。

海岸周辺の史跡や歴史を知ることが若い人たちの郷土愛につながるだけでなく、海岸一帯を景観地域とするためにも必要なので、今後もこのようなイベントを支援していきます。

*沈溺庶霊塔とは阿久根大島からの帰りに船が遭難(1799年)して29人が溺死した霊を鎮めた石塔、読み方は碑の記載に従う。



前日に愛宕鼻の山道を地域とNPOで清掃



愛宕神社の由来を説明する東川氏(右端)



沈溺庶霊塔を囲みクイズ形式で勉強